

「おわり」から
「はじめる」宣教協力

第7回 日本伝道会議
Japan Congress on Evangelism



主会場 / 長良川国際会議場 (岐阜市)

2023年9月19日(火)~22日(金)

大会規模:会場1000人 オンライン有り

実行委員長の挨拶



JCE7 実行委員長
小平 牧生

1974年から開催されてきましたJCE(日本伝道会議)の第7回会議が、来年9月に、長良川国際会議場を主会場に行われます。これまで築き上げられてきた交わりと宣教協力を土台とし、私たちに委ねられた福音宣教のゴールをめざして、あらためて戦略と協力と一致と確認してともに取り組んでいく時となることを願っています。お祈りとご協力をお願いいたします。

●福音宣教の継続的な協力態勢を築くためには、多くの参加者というよりも、幅広い多くの団体から参加していただく

ことが必要です。現在、各教団、教派、単立教会、宣教団体、地域牧師会、神学校などの諸団体に「JCE7協力団体」への登録をお願いしています。また国外日本語教会、国内外国語教会の方々の参加のための取り組みを行なっています。

●「東海宣言(仮称)」の原案の検討が始まり、現在その資料となるご意見を各団体や教会から出していただいています。信徒の方々や若い方々からもぜひ積極的なご意見をいただき、文字通り「私たちの宣言」となることをめざします。

●開催地である東海地区は、これまでも宣教協力に取り組んでこられた地域ですが、JCE7を機にさらに次の時代に向かう教会協力の態勢を生み出していくために「神の国のインフルエンサーとなる」との開催地委員会ビジョンを掲げて取り組んでくださっています。

コロナ禍にあって、情報から交わりのレベルまでコミュニケーションのあり方が変化しています。皆様お一人一人の手もとに情報が十分に届いているでしょうか。公式ホームページでは逐次発信をしていますので、ぜひ定期的にご覧いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

会議のテーマと趣旨説明

コロナ禍によって社会の生活環境や様式は激変し、キリスト教会もまた、教会のあり方や宣教の方策を含め本質的な事柄への問いかけが求められています。もちろん、私たちキリスト者にとって、それは神による摂理的な機会と思わされるものであり、それは神の御旨を覚え、皆が御前にひれ伏して神に聞き、上からの方向性を教えていただく大切な時代であることを意味しています。そこで、JCE7のテーマは、これまでのプロジェクトの働きを評価しながらも、神による全く新たな可能性、発想法を根本的に変えることによって、物事の新しい局面が開かれることを期待します。

テーマ「おわり」から「はじめる」宣教協力

「おわり」から「はじめる」ために、日本の教会間協力による宣教を聖書的基本原则に基づいて、根本から深く考え直してまいります。そして、神が新しく始めようとしておられることへ共に参画していくために、教団・教派及び宣教団体が語り合い、一つの具体的な方向性を共に見出す時としてまいります。JCE7において、日本の福音派のみならずキリスト教界の流れを大きく変えようとしておられる神がおられます。その神に互いに聴き、神のみこころを知り、神と共に踏み出す大切な時となることを願いながら、共にJCE7を作り上げてまいります。

また東海宣言(JCE7の誓約文)作成のために、アンケートの御協力をお願いします。

プログラム

- 18日(月) 午後:東海フェスティバル
- 19日(火) 午後:オープニング、セッション①
- 20日(水) 午前:セッション②、スモールグループ
午後:アクショングループ(プロジェクト、分科会)、オンライン祈禱会
- 21日(木) 午前:セッション③、スモールグループ
午後:アクショングループ(プロジェクト、分科会)、グローバルナイト
- 22日(金) 午前:東海宣言、クロージング
午後:日本語宣教従事者の集い
- 24日(日) 午後:東海合同礼拝

神の国に生き、社会への影響力を

何を共有し、確認し、目指すのか——実行委員座談会



第7回日本伝道会議（JCE）が2023年9月に東海地区で開催される。日本の教会を取り巻く諸課題を、伝道の推進のために教団教派を超えて諸教会が集い、共に話し合い、協力して取り組むことを目的に開催されてきた伝道会議は、コロナ禍による礼拝の危機の渦中にあり、平和が脅かされる現実を目の当たりにしている日本の教会に向けて、何を共有し、確認し、目指そうとしているのか。実行委員長の小平牧生氏（基督兄弟団・西宮教会牧師）、プログラム局長の中西雅裕（ホーリネス・宝塚東キリスト教会、大阪キリスト教会牧師）、開催地委員長の羽鳥頼和（JCEA・自由ヶ丘キリスト教会牧師）、開催地委員で日本福音同盟（JEA）担当理事の内山勝（JGM・インマヌエル名古屋キリスト教会牧師）の各氏が語り合った。

コロナ禍で礼拝の本質を考えさせられた

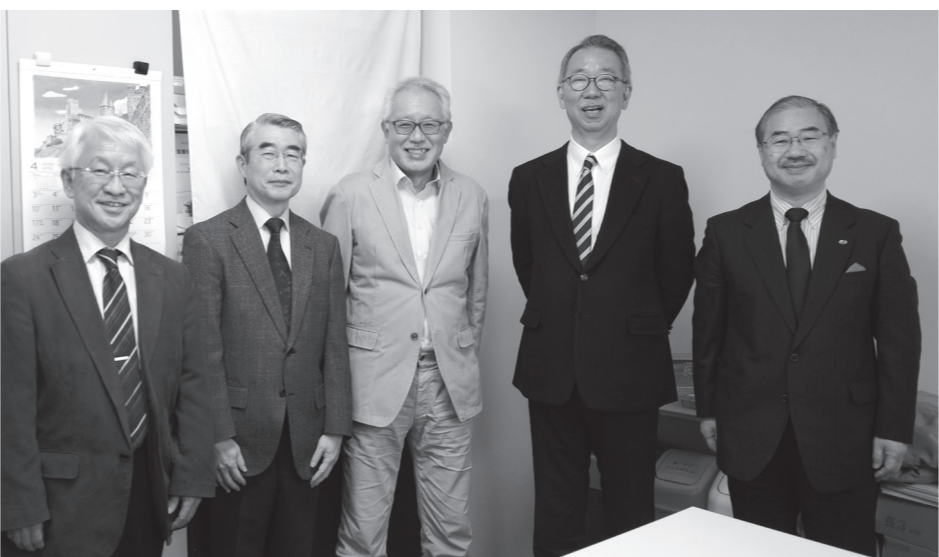
司会 1974年に京都で第一回が開催され、今回7回目を迎える伝道会議ですが、初期は福音派のアイデンティティである「聖書信仰がテーマに据えられ、それを土台に21世紀に入ってからは具体的な宣教協力を目指してきました。今回のテーマは「おわり」から「はじめ」の「宣教協力」と大変キャラクターです。

中西 「おわり」とは第一に、教会が置かれている、今やらなければ後が無い状況めには呼びかけも必要になるかと思えます。

信徒も牧師も、共通の課題に意見を出し合い

司会 宣教協力というところで互いに仕合うというところが語られました。そのためには呼びかけも必要になるかと思えます。

石田 今までの伝道会議の積み重ねは大きいですが、その場限りで終わらずに、そこで生まれた交流がその後も続き、各種プロジェクトを設けることで、同じ重荷を持つ



座談会の出席者。左からプログラム局長の中西雅裕氏、開催地委員で日本福音同盟（JEA）担当理事の内山勝氏、開催地委員長の羽鳥頼和氏、実行委員長の小平牧生氏、大会会長の石田敏則氏

教会の存在意義が問われ、求められる自立した礼拝者

司会 今回のテーマを設定するにあたっては、今教会が正念場におかれているという認識が示されました。確かに教会は様々な危機に直面していると思われ、具体的にどのような状況にあると考えていらっしゃいますか。

羽鳥 開催地委員会としては目指すビジョンとして「神の国のインフルエンス」となるを挙げました。個人的にはもうなっていないのではというところが危機感としてあります。本来キリスト者は、地の塩、世の光です。そして社会に影響を与えていくはずですが、今まで先延ばしにしてきてしまったことが、コロナ禍で礼拝も思うように捧げられないような状況で、急に目の前に突きつけられたのです。でもそれは恵みの中で実践していく事柄であることに目を

内山 コロナだけでなく、戦争もそうでしょう。今までの平和の考え方が破られた。価値観が揺らいでいる中で、教会の存在の意味が問われている。このままの教会ではこの変化に対応できないと神様が警告を促しているのではないのでしょうか。そこで伝道会議に期待すること、私たちが福音に対して、

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

中西 コロナ禍は世界のリセットになりました。神が

共有できるものを見出して協力する

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

第七回 日本伝道会議を応援します

JEA会員

青屋福音教会
イエス福音教団
活けるキリスト一妻の群
五つのパン キリスト教会
イマヌエル総合伝道団
ウエスレアン・ホーリネス教団
天竺丸ヨシタケキリストチャーチ
勝田聖書教会
鎌倉海岸キリスト教会
上板橋キリスト教会
北本福音キリスト教会
救世軍
基督兄弟団
基督聖協団
キリスト伝道隊
コイニア・クリスチャン・チャーチ
国際福音教団
札幌キリスト福音館
シオン・キリスト教団
シオンの群教会
新生キリスト教会連合
聖書キリスト教会
世界福音伝道会
高岡ハブテスト教会
チャーチ・オブ・ゴッド
東京中央教会
東京福音センター
東京フリー・メソジスト教団
同盟福音基督教会
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
日本アドベント・キリスト教団
日本イエス・キリスト教団
日本神の教会連盟
日本キリスト合同教会
日本聖契キリスト教団
日本聖泉基督教会連合
日本聖約キリスト教団
日本宣教会
日本長老教会
日本伝道隊
日本伝道福音教団
日本同盟基督教会
日本バプテテスト教会連合
日本バプテテスト宣教団
日本フォーエスクエア福音教団
日本福音キリスト教会連合
日本福音自由教会協議会
日本フリー・メソジスト教団
日本ホーリネス教団
日本バプテテスト同盟
友愛グループ教会連合
福音交友会
福音伝道教団
保守バプテテスト同盟
友愛グループ教会連合

デイリーブレッド
東京キリスト教学園
東京ミッション研究所
日本FEBEC
（※日本キリスト長老伝道隊）
日本キングス・ガーデン連合
日本クリスチャンキャンプ協議会
日本クリスチャン 信徒連盟
日本福音宣教師団（JEMA）
ハーベスト・タイム・ミニストリーズ
H-i-b-a・高校生聖書伝道協会
H-i-b-a・Zoro
Linger Zero
一般社団法人ピー・ジャパン
ファミリー・フォーラム・ジャパン
（※）北海道福音伝道会 北海道聖書学院
三浦綾子読書会
ワードオブライフジャパン
（特許）ワールド・ビジョン・ジャパン
Onhope Japan

JCE協力団体（2022年5月時点）

日本宣教会
日本キリスト者オリエントサイトSATY
基督兄弟団
友愛グループ教会連合
日本イエス・キリスト教団
日本メソジスト合同教会
イマヌエル総合伝道団
世界福音伝道会
勝田聖書教会
久遠キリスト教会
SEND国際宣教師
福音讃美歌協会
キリスト聖書神学校
関西シシヨリサチセンターKMRCC
H-i-b-a・高校生聖書伝道協会
日本ホーリネス教団
上板橋キリスト教会
日本伝道福音教団
日本聖約キリスト教団
東京フリー・メソジスト教団
日本福音宣教師団（JEMA）
日本フリー・メソジスト教団
日本ローザンヌ委員会
ジャパニーズコスベルチャーチ
同盟福音基督教会
シオン・キリスト教団
Onhope Japan
神戸ルーテル神学校
日本聖契キリスト教団
日本バプテテスト宣教団
東海聖書神学校
心のケアミニストリー タリタ・クム
聖書を読む会
OMF日本ホームサイドセンター
OMF Japan Field
JOMA（海外宣教連絡協力会）
アジアアクセス・ジャパン
活けるキリスト一妻の群

JEA協力会員

アジアアクセス・ジャパン
AWANA ジャパン
いのちのこぼれ
お茶の水クリスチャン・センター
JOMA（海外宣教連絡協力会）
関西シシヨリサチセンターKMRCC
キリスト者学生会
キリスト聖書神学校
一般社団法人クラッシュジャパン
クリエーション・リサーチ ジャパン
国際ナビゲーター
国内開拓伝道会
心のケアミニストリー タリタ・クム
新生宣教師
聖契神学校
聖書宣教会
聖書同盟
聖書を読む会
宣教師訓練センター
ソエ・ジャパン
一般財団法人 太平洋放送協会

アジアアクセス・ジャパン
活けるキリスト一妻の群
一般財団法人 日本G&M文化財団
名古屋リサーチセンターKMRCC
キリスト全国災害ネットワーク
OnJapan
ブラジル福音ホーリネス教団
保守バプテテスト同盟
お茶の水聖書学院
日本バプテテスト教会連合
三浦綾子読書会
一般財団法人 太平洋放送協会
日本オーブンバイブル教団
コイニア・クリスチャン・チャーチ
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
聖書同盟
福音伝道教団
チャーチ・オブ・ゴッド
新生キリスト教会連合
日本同盟基督教会

賜物を生かし合う出会いの場に

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

改めて確信を持つことです。日本を変える神の国を実現するゴールは間違っていない。そこに向かって導かれるのは神が自身であり、福音に対する信仰をもっと度量で確認することができればいい。そのために私たちは変わらなければいけない。特に牧師と信徒の関係を横の関係にし、共に福音のために労する仲間であることを確認したい。会議には多くの信徒が参加することを願っています。主体的な参加が、神の国の実現に参与することにもつながり、それによって教会も変わっていくことを期待しています。

日本伝道会議の歩み



第1回(京都)1974年6月
「日本をキリストへ
—キリストにある一致と交わりの相互理解の強化」



第2回(京都)1982年6月
「日本をキリストへ
—終末と世界宣教」



第3回(那須塩原)1991年6月
「日本、アジア、そして世界へ」



第4回(沖縄)2000年6月
「21世紀の日本を担う教会の伝道
—和解の福音を共に生きる」



第5回(札幌)2009年9月
「危機の時代の宣教協力—もっと広く、もっと深く」



第6回(神戸)2016年9月
「再生へのRe-VISION—福音・世界・可能性」

継続されている伝道会議



JCE7 大会会長 石田 敏則

日本伝道会議はこれまで6回開催されました。1960年代、福音的な立場に立つ日本の諸教会の中から、一致と交わり相互理解を求める声があがり1968年4月、日本福音同盟(JEA)が設立されました。

そして、1974年、第1回日本伝道会議(京都)が開催されました。講師は、ローザンヌ世界宣教会議の誓約文起草者のジョン・ストット師でした。日本の福音派が聖書信仰に立つことの方向性を確認する時となりました。その後1982年に第2回日本伝道会議(京都)「日本をキリストへ—終末と世界宣教」、1991年 第3回日本伝道会議(那須塩原)「日本、アジア、そして世界へ」、2000年 第4回日本伝道会議(沖縄)「21世紀の日本を担う教会の伝道—和解の福音を共に生きる」、2009年 第5回日本伝道会議(札幌)「危機の時代の宣教協力—もっと広く、もっと深く」、そして、2016年 第6回日本伝道会議(神戸)「再生へのRe-Vision—福音・世界・可能性」が開催されました。

これまで、日本伝道会議は福音的教会のあり方、方向性を模索しつつ、一致と協力関係を構築してきました。1回～3回まではJEAの主催でしたが、4回からは実行委員会による主催に変わり、より多くの団体、教団教派の参加、協力を目指してきました。

2000年以降、伝道会議の開催に関して、多くの議論がなされ、伝道会議は一過性のイベントではなく、継続される会議にしなければならないとの声から2009年JEA総会において、7年ごとの開催が決議され、第5回以降準備が進められています。

私たちは、日本伝道会議が日本における宣教協力の実を結ぶものとなることを願っています。第7回日本伝道会議(東海・岐阜)でお会いしましょう。

神の国のインフルエンサーとなる



JCE7 開催地委員長 羽鳥頼和

開催地では、これからの東海地域の宣教協力が、主の御旨にかなったものとなることを願って準備をしています。「神の国のインフルエンサーとなる」とのヴィジョンを与えられ、その具体化を目指しています。

東海地域で、主は、ずっと以前から教職者や宣教師だけでなく、信徒、高齢者、次世代である子どもによっても、主の働きを進めてこられました。

尾張での宣教のはじまりは、60歳の信徒コンスタンティ(高山右近の父の家臣)による郷里伝道でした。和訳の聖書「約翰福音之伝」の翻訳には、愛知県知多郡美浜町の漁師音吉らが関わっています。

1908(明治41)年、地久節に「讚美歌」を歌い、「聖書」を読んだとして問題視され、苦悶された金城女学院(当時)は、今もミッションスクールの使命を果たし続けておられます。戦時下で美濃ミッションへの迫害は、12歳の子が伊勢神宮参拝に行くことを拒否したことによって始まったと聞いています。これからも主は、信徒、高齢者、次世代を通して働いてくださいます。JCE7が信徒、高齢者、次世代が整えられる時となることを願っています。

ともに集まることが難しい時代です。JCE7もオンライン同時開催の準備をしています。with コロナと言われる時代ですが、その前から教会は、その誕生の時からずっと「with Jesus」であったことを覚えています。岐阜の会場に集まる方々だけでなく、オンラインで参加する方々も主にあつてもともに集められる会議とされますように。ともにひとつとされて主の御前に出ささせていただくことを期待しています。

JCE7 協力団体としての登録のお願い

JCE7にご参加いただくためには、JCE7 協力団体としての登録が必要です。

ご参加は団体(教団、教会、諸団体)からの派遣という形になります。

JCE7 公式サイト「JCE7 協力団体登録フォーム」よりご登録ください。(2022年8月末登録締切)

<http://jcenet.org/jce7/>



献金のお願い

昨今の事情を鑑み前回より予算規模を大幅に縮小し、総額3700万円の予算を計上しました。それでもなお参加費と共に参加協力団体からの協力献金、個人、企業などからの篤志献金を必要としています。日本宣教がさらに拡大していくためにも、伝道会議がさらなる宣教協力をともに行っていく機会になればと願っています。経済的にも厳しい折りではありますが、喜びをもって主におささげくだされば幸いです。

郵便振替:00160-5-483905
加入者名:日本伝道会議

祈りのお願い

毎月19日にJCE7・YouTubeチャンネルで祈り会動画を配信中!

JCE7は
ネット祈り会・祈りカード等、
祈りを深めながら
進んでいます。
皆様も是非お祈りください。

- ・この国に関わる全ての人の救いのために、福音の宣教が前進するように。
- ・相応しいプログラム、必要とされている働きが導かれますように。
- ・開催地である東海地域の宣教協力が祝され、主の恵みが当地に注がれますように。
- ・祈り・賛美(テーマソング)によって、教会・教団・諸団体が協力できますように。
- ・今この時の形で、具体的な事務局の働きが進められますように。

発行: JCE7 実行委員会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル JEA 気付
TEL: 03-3295-1765 (JEA) Email: jce7@jcenet.org
公式HP <http://jcenet.org/jce7/> (「日本伝道会議」で検索)